

レースって良いよね

## 第14回「感動ってなに?」の巻

このホームページのリンク、およびギャラリーにアメリカ初のプロサッカー選手、木下圭選手の項を追加させていただいた。木下さんとはシアトルで知り合ったのだが、失礼ながら私はサッカーにはウトイ。サッカーに限らず元々、少年時代から球技(特に直径が15cm以下のボールを用いる競技)そのものに対して明るい方ではないので正直なトコ、DFとかMFとか、詳しいことは知らない。(さすがにゴールキーパーのポジションくらいは知っているが…)

そんな超ウトウトの私でも、セリエAリーグで活躍する中田選手のことは近年マスメディアでも多くの特集が組まれているので知る機会も多い。そして試合内容、インタビュー、解説などを見ていると感ずることがある。

「カッコイイ。。。」

Jリーグの開幕当初、ブームの波もあってかとにかく何もかもが派手だった。ゴールが決まると踊るとか…当然選手の技量は素晴らしいものだったのだろうが、当時の私にはオーバー過ぎるリアクションに「造られた」スポーツを見ていた。

それは「すごいなー」と漠然には思っても、「カッコイイ」領域までは私の場合至らなかったのである。

しかし、その中田選手のプレーを見たり、インタビューを聞くと自分の琴線に触れる何かがある。それが何かを上手く表現するボキャブラリーを残念ながら持ち合わせていない。あえて言うなら、やはり「カッコイイ」という一言に尽きる。

自分がサッカーの事をよく知りもしないのに「感動」することが出来る。これはとんでもなく素晴らしいことだと思う。

それはひたむきに努力する選手の姿勢がそう感じさせるのかもしれないし、勿論常人には到底マネの出来ない技能も必し。とにかく、プロフェッショナルであるということはそもそもこういう事なのだろうか。

同業者が内輪で「これはスゴイことだ」とか「今のは難しい」など解説したり誉めたりする場面が多々ある。いや、それ自体は何ら問題のあることでもない。しかし、「本当にスゴイ」と心動かされるものはたとえ専門知識が無くとも

やはり訴えかける何かがあるということなのである

私はレースにとってのこの「何か」を知りたい。レース屋としての概念、知識、常識など全て置き去りにして、全くの素人としてTVのレースを見てみる。

少なくとも、先日行われた2輪のWGP、日本GPでは私は一人のバイク乗りとして2度、充分楽しんだ。

一人のライダーとして楽しみ、また一人のレース屋としてエンジニアリングを通して楽しんだ。

恐らく、あくまでも恐らくではあるのだが、もしオートバイに乗らないヒトでも先日のレースを目にしたらきっと余程バイクに嫌悪感を持っていない限り感動できるレースだったのではないだろうか。

海外でひたすら頑張っている木下選手、中田選手の生き様やWGPでのレーシングの原点を垣間見ながら「感動ってなに?」を連発する今日この頃である。